

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	中枢神経系理学療法学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	302 他
担 当 教 員	中原 広人	実務経験とその関連資格	回復期病院、維持期にて理学療法士として勤務。中枢神経疾患など多岐にわたる疾患を経験。実習指導者としても経験あり。			
《授業科目における学習内容》						
神経・筋疾患を主とした中枢神経疾患に対する理学療法の適用に関する知識と技術を学び、問題解決能力を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
授業態度、課題レポート、筆記試験の総合評価とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
標準理学療法学 神経理学療法学 ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。授業後、内容の確認をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問等行う。適宜小テストを行う。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経筋疾患の概要、パーキンソン病の病態について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料		神経筋疾患の概要、パーキンソン病の病態についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	神経筋疾患の概要、パーキンソン病の病態			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病の病態と評価について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料		パーキンソン病の病態と評価についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	パーキンソン病の病態と評価			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病の運動療法、日常生活動作訓練について学び、実践できるようになる。	テキスト、配布資料		パーキンソン病の運動療法、日常生活動作訓練についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	パーキンソン病の運動療法、日常生活動作訓練			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	失調症の病態、症状と評価について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料		失調症の病態、症状と評価についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	失調症(病態、症状と評価)			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	失調症の運動療法、日常生活動作について学び、実践できるようになる。	テキスト、配布資料		失調症の運動療法、日常生活動作についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	失調症(運動療法、日常生活動作)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄小脳変性症について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	脊髄小脳変性症についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	失調症(脊髄小脳変性症)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭部外傷・脳腫瘍について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	頭部外傷・脳腫瘍についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	頭部外傷・脳腫瘍 病態、評価、理学療法		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮性側索硬化症の病態、評価について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	筋萎縮性側索硬化症の病態、評価についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋萎縮性側索硬化症(病態、評価)		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮性側索硬化症のリスク管理、運動療法について学び、実践できるようになる。	テキスト、配布資料	筋萎縮性側索硬化症のリスク管理、運動療法についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋萎縮性側索硬化症(リスク管理、運動療法)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮性側索硬化症の日常生活動作について学び、実践できるようになる。	テキスト、配布資料	筋萎縮性側索硬化症の日常生活動作についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋萎縮性側索硬化症(日常生活動作)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	今まで学んだ内容を振り返り、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	今まで学んだ内容についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	振り返り(1)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	多発性硬化症の病態と症状、評価について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	多発性硬化症の病態と症状、評価についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	多発性硬化症(病態と症状、評価)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	多発性硬化症のリスク管理、運動療法について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	多発性硬化症のリスク管理、運動療法についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	多発性硬化症(リスク管理、運動療法)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	多発性硬化症の日常生活動作について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	多発性硬化症の日常生活動作についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	多発性硬化症(日常生活動作)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経筋接合部の疾患・筋ジストロフィーについて学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	神経筋接合部の疾患・筋ジストロフィーについてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	神経筋接合部の疾患・筋ジストロフィー		